

寅さん歩 その 11

江戸・東京の祭-61

(江戸らしい祭-25)



平野 武宏

〔奥澤神社 大蛇お練り神事〕

世田谷区奥沢 5-22-1 最寄駅 東急目黒線 奥沢駅

境内の説明板によると「奥澤神社は世田谷城主吉良氏の家臣大平氏が奥沢城を築くにあたり守護神として勧請したと伝えられる。例祭には江戸中期より伝えられる「厄除けの大蛇」の特殊神事が行われ、境内の「八幡小学校発祥之地」の碑は、かつて八幡小学校校舎があったからである。社殿は昭和 45 年（1960 年）に完成し、尾洲檜材を用い、室町期の様式を採用したもので都内においても他に類を見ない」と記載。



寅次郎、今まで見る機会がなかった神事が毎年 9 月第二土曜日に行われるとの情報を得て、平成 29 年（2017 年）9 月 9 日に訪問しました。

説明板には大蛇お練り神事とは『氏子に担がれる、藁製の大蛇が奥澤神社を出発し、半日かけて氏子町内を練り歩く厄除けの大蛇として地域に親しまれている。その由来は江戸時代に疫病が流行した際、名主の夢枕に八幡様が現れ「藁で作った大蛇を村人が担ぎ、村内を巡行させろ」とのお告げがあり藁蛇を巡行させると、疫病が治ったので村人は藁蛇を神社の鳥居に掲げた(注:表題右の写真)藁蛇の長さは約 9m、胴の直径は約 25cm、重さは約 150kg で、祭りの 1 週間前に約 40 人が 1 日かかりで作り上げます。お練りの際に「ワッショイ」との掛け声をあげ、まるで蛇が道を這うかのように、左右に激しく大蛇を動かしながら担ぎます。最後尾には沿道の人々に疫病除けの藁が配布されます。厄除けなどに祈願のために藁で編んだ蛇を祀る神事は都内に数例残っていますが、その蛇を担いで氏子町内を練り歩く神事は都内でここだけで都民の生活文化の特色を示すものとして重要です』と記載。

当日、早めに行くと大蛇は神前に置かれていました（写真下左）
参拝は前に立っている鈴を取り、柏手の代わりに鳴らしてお参りします。

10 時前に神前から大蛇が外に出され、神主からお払いを受けて、巡行の出発です。





最後尾に藁を配る人がいます



今年の奥澤神社の例大祭は9月9日・10日に行われ、9日の大蛇巡行の後は氏子の神輿や大蛇神輿が町内を練り歩きます。



大蛇神輿

次回は 東京にこんなところ です。

平野 寅次郎 拝